

# 私の履歴書

前橋 汀子

③

私鉄沿線の改札口で人を待つていたある日の夕方、電車から吐き出されてくる人の波を見てふと思ったことがある。「この中にクラシックのコンサートに足を運んだことのある人が何人いるだろうか。ちょうど明日、11月1日で6回目を迎える。」

最初の挑戦は1988年に録音したアルバム「無伴奏ウアイオリン・ソナタ&パルティータ」

3曲の計6曲を通して演奏すると休憩をはさんで約3時間かかる。1人で弾くこの曲はバイオリニストにとってバイアルのような作品で、バイオリンのあらゆる技巧が網羅されている。どこまでも探究しなくなる曲だ。

私は14、15年に国内各地で全曲演奏会を開いた。来年も夏以降に東京、大阪、横浜で全曲演奏会に挑むことが決まっている。この公演をバツハの集大成にしたいと思う。これまで私はシゲティをはめて痛感した。いろいろなことを思い出しながらの毎日、とても楽しくすごせた1カ月になりました。心から感謝しています。

## 今この瞬間 全力尽くす

バツハ「無伴奏」探究続く

## 生涯現役

一人でも多くの方に生の演奏を聴いてほしい。休日の午後、低料金を聴いていただく「フタヌーン・コンサート」を2005年から始めた背景にはそんな思いがあった。

もっと親しみやすいクラシック公演ができないかと考えた私は、13年から東武鉄道の協力を得て「デイライト・コンサート」も東京・池袋の東京芸術劇場で始めた。平日の

こうしたコンサートに加えて、前回紹介したベートーベンの弦楽四重奏を弾く「前橋汀子カルテット」が現在の活動の柱になっている。

好きな作曲家はたくさんいるが、最後はベートーベンとバツハに行き着いた。近年、私はバツハの「無伴奏バイオリンのためのソナタとパルティータ」に再び挑戦している。

ソナタ3曲とパルティータ

奏家のその時のすべてが表れる作品なのだ。

あれから30年。私も年齢を重ね、同じ楽譜を弾いても当時とはテンポや間の取り方などとはかなり違う。音符には書かれていない行間の部分に深い背景があるということだ。このバツハの無伴奏は演奏家のその時のすべてが表れる作品なのだ。

私は14、15年に国内各地で全曲演奏会を開いた。来年も夏以降に東京、大阪、横浜で全曲演奏会に挑むことが決まっている。この公演をバツハの集大成にしたいと思う。これまで私はシゲティをはめて痛感した。いろいろなことを思い出しながらの毎日、とても楽しくすごせた1カ月になりました。心から感謝しています。

今は心身ともに充実しているが、自分に残された時間には限りがある。これが最後になるかもしれないとの

思いで一回一回のステージに全力を尽くし、一日でも長くソリストとして現役を続けていきたい。



ステージに立つ筆者

(バイオリニスト)

〓おわり

あすから興福寺貫首 多川俊映氏